

特別企画：四国地区 スーパーマーケット主要 20 社 業績動向調査（2019 年度）

2019 年度の業績、売上高・利益額とも 3 年連続で減少

はじめに

2010 年に（株）マルナカ（香川県）、2018 年に（株）フジ（愛媛県）がイオン（株）（東証 1 部上場）と業務提携したほか、2019 年には（株）マルヨシセンター（香川県）が「ゆめタウン」などを展開する（株）イズミ（東証 1 部上場）と資本業務提携をするなど、大手を中心に地方におけるスーパーマーケットの再編が進んでいる。また、新型コロナウイルスの感染拡大で、「新しい生活様式」の定着による消費者の購買行動の変化が加速しているほか、台風や長雨、天候不順により衣料品の販売不振がみられるなど、取り巻く経営環境が変化するなか、四国地区の地場スーパーマーケットの業績はどのように推移しているのだろうか。

帝国データバンク高松支店は、2020 年 8 月末時点の企業概要ファイル「COSMOS2」（147 万社収録）の中から、2015 年度（2015 年 4 月期～2016 年 3 月期）から 2019 年度（2019 年 4 月期～2020 年 3 月期）までの決算の年売上高と利益額が比較可能な、四国地区に本社が所在するスーパーマーケット主要 20 社を抽出し、年売上高別、利益額（当期純利益）別、売上高ランキングについて分析した。

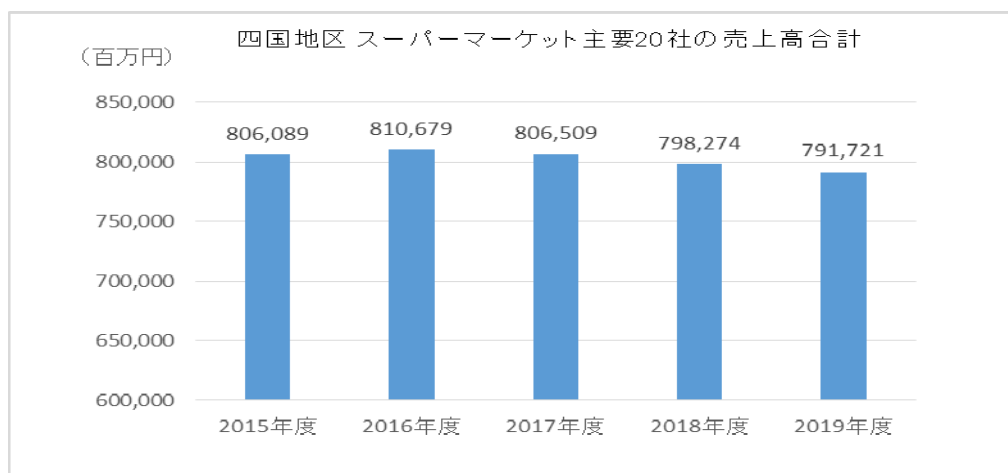
調査結果（要旨）

1. 2019 年度の年売上高合計は 7,917 億 2,100 万円

前年度と比べて 65 億 5,300 万円（0.8%）少なく、3 年連続で減少

2. 2019 年度の利益額合計は 19 億 9,206 万円

前年度と比べて 43 億 7,419 万円（68.7%）少なく、3 年連続で減少



1. 年売上高推移、3 年連続で前年度を下回る

四国地区に本社が所在するスーパーマーケット主要 20 社について、2015 年度～2019 年度決算の年売上高合計をみると、2019 年度は 7,917 億 2,100 万円となり、前年度と比べて 65 億 5,300 万円 (0.8%) 少なく、3 年連続で減少した。増減収の社数別内訳は、増収が 6 社に対して減収は 14 社であった。同業者間のみならず、食品の品揃えを強化しているドラッグストアやディスカウントストアとの競争激化を主要因として減収となった企業が散見された。

年商規模別にみると、「100 億円未満」(前年度比 1.3%増)のみ前年度を上回ったが、「100 億～500 億円未満」(同 2.2%減)、「500 億円以上」(同 0.2%減)はいずれも前年度を下回った。

(単位:百万円)

年度	売上高合計	前年度比 (%)	売上高合計(年商規模別)		
			100億円未満	100億～500億円未満	500億円以上
2015年度	806,089	2.4	37,943	282,724	485,422
2016年度	810,679	0.6	39,285	285,209	486,185
2017年度	806,509	-0.5	39,400	281,468	485,641
2018年度	798,274	-1.0	39,264	278,141	480,869
2019年度	791,721	-0.8	39,781	272,107	479,833

2. 利益額推移、3 年連続で前年度を下回る

2015 年度～2019 年度決算の利益額合計(当期純利益)をみると、2019 年度は 19 億 9,206 万円となり、前年度と比べて 43 億 7,419 万円 (68.7%) 少なく、3 年連続で減少した。増減益の社数別内訳は、増益が 11 社に対して減益は 9 社であった。増益となった企業の数が多かったものの、一部の企業において店舗などに対する多額の減損損失を特別損失として計上したことで、利益額合計は減少した。

年商規模別にみると、「100 億円未満」が黒字転換したほか、「100 億～500 億円未満」は前年度比 350.7%増となったものの、「500 億円以上」が同 89.6%減となり、全体を押し下げた。

(単位:千円)

年度	利益額合計	前年度比 (%)	利益額合計(年商規模別)		
			100億円未満	100億～500億円未満	500億円以上
2015年度	5,158,811	26.9	-23,283	2,510,094	2,672,000
2016年度	7,371,218	42.9	294,832	2,459,386	4,617,000
2017年度	6,558,071	-11.0	392,540	1,504,531	4,661,000
2018年度	6,366,259	-2.9	-177,558	173,817	6,370,000
2019年度	1,992,061	-68.7	545,667	783,394	663,000

※2015 年度と 2018 年度における「100 億円未満」のマイナスは、多額の固定資産売却・除却損や減損損失を特別損失として計

上した企業が全体を押し下げたことが主な要因

3.まとめ

今回の調査で、四国地区に本社が所在するスーパーマーケット主要 20 社の 2019 年度の売上高合計および利益額合計は、ともに 3 年連続で減少したことがわかった。ナショナルチェーンのほか、食品の品揃えを強化しているドラッグストアやディスカウントストア、ネット通販といった業態との競合に加え、天候不順による衣料品の低迷なども背景にあるとみられる。一方で、個別の企業をみると主要 20 社のうち 6 社が増収となっており、限られた市場内で存在感を示している。

こうしたなか、2020 年度に入ってから、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、外出自粛などから衣料品の低迷は続くとみられるが、「巣ごもり消費」による内食志向の高まりや、景気の先行き不透明感を背景とした根強い節約意識から、飲食料品への需要増が見込まれる。

ただ、スーパーマーケット業界は、同業他社との競合に加えて、EC や宅配など業態を超えた競争、さらには天候などの自然災害が業績に影響を与えることが多い。四国内においても今年 8 月にはスーパーストア業者の(株)大見屋(愛媛県)が破綻するなど経営環境の厳しさは続いており、経営統合や業務提携、資本提携など多様な手段で生き残りを図る動きがさらに活発化することも予想されることから、引き続き幅広い観点から動向をみていく必要がある。

<参考>

四国地区 スーパーマーケット主要20社 2019年度売上高ランキング

(単位:百万円)

順位	商号	本社所在地	年売上高 (2019年度)	前年度比 増減
1	株式会社 フジ	愛媛県松山市	303,371	↑
2	株式会社 マルナカ	香川県高松市	176,462	↓
3	株式会社 サニーマート	高知県高知市	42,267	↑
4	株式会社 マルヨシセンター	香川県高松市	38,477	↓
5	生活協同組合 コープえひめ	愛媛県松山市	34,304	↑
6	株式会社 キョーエイ	徳島県徳島市	33,460	↓
7	株式会社 エースワン	高知県高知市	21,440	↓
8	株式会社 サンシャインチェーン本部	高知県高知市	20,619	↓
9	生活協同組合 コープかがわ	香川県高松市	18,315	↓
10	株式会社 きむら	香川県高松市	17,000	↓
11	株式会社 ママイ	愛媛県新居浜市	12,000	↓
12	株式会社 サンプラザ	高知県土佐市	11,959	↓
13	こうち生活協同組合	高知県高知市	11,445	↑
14	生活協同組合 とくしま生協	徳島県板野郡	10,821	↑
15	株式会社 日東物産	愛媛県松山市	8,078	↑
16	株式会社 松山生協	愛媛県松山市	7,994	↓
17	株式会社 ムーミー	香川県高松市	6,300	↓
18	株式会社 木村チェーン	愛媛県新居浜市	6,194	↓
19	株式会社 そごうマート	愛媛県西条市	5,754	↓
20	株式会社 ジェイエイ越智今治	愛媛県今治市	5,461	↓

【 内容に関する問い合わせ先 】

株式会社帝国データバンク 高松支店 担当：須賀原 欣彦、青木 真人

TEL：087-851-1571 FAX：087-851-3837

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。